普及現地情報

| | |
|---|---|
| 発信年月日 | 令和３年(2021 年) ８月４日 |
| 所　属　名 | 大津・南部農産普及課 |
| 番　　号 | A21006 |
| 部門分類 | 170（花き） |
| 発信者名 | 布施 |

# リンドウの卸売市場への出荷が始まる-花の栽培未経験者への支援-

２年前、県単事業「やまの健康推進事業」の活用を機に、中山間地の大津市葛川（かつらがわ）地域で、葛川まちづくり協議会特産育成部会が発足し、リンドウの苗が定植されました。栽培２年目を迎え、７月 14 日から大阪の卸売市場出荷が始まり、花束加工業者からも高評価を受けています。

葛川地域は８集落で構成されていますが、人口は 200 人余り、高齢化と過疎化が進み、鹿による獣害の多発地域です。上記事業を活用することで、移住者を増やし人口を倍増させることが最終目標となっています。当地に適した作物を栽培・定着させることで収益を上げ、地域住民の皆さんが元気になれば移住希望者に強くアピールすることができます。

当課の提案でリンドウが選定され、６名による特産育成部会が発足、3,500 株（15ａ）の苗が定植されました。県下の花き担当普及員が連携して取り組んだ調査研究の結果を活用したため、当地での栽培も順調に進むはずでした。

しかし、保水力と保肥力の非常に乏しい土質の影響が大きく、頻繁にかん水や施肥を繰り返さなければならないほか、倒伏防止用のフラワーネットの設置や病害虫防除を適期に行う必要もあり、部会員から「リンドウがこんなに手間暇のかかる作物とは思わなかった。前任者から栽培は簡単だと聞いていたのに…」と、口々に不満の声が上がり始めました。

そこで、現地へ頻繁に通い、栽培に苦労されている点を部会員個々から聞き取り、液体肥料でかん水と施肥を同時に行うこと、病害虫防除は初期発生を見逃さないことで回数や散布量を少なくできること等を伝え、栽培の省力化を図りました。

また、簡単に栽培できる営利作物などなく、栽培上の苦労は多々あり、そのために県が事業で支援していること、リンドウ栽培が上手くいかなければ移住者の確保は望めなくなることを部会長はじめ部会員へ繰り返し伝えました。

これらのことが徐々に浸透し、花束加工業者を招いての出荷会議では、品質面での問題点は全くないとの高評価を得ることができました。９月末までに約 5,000 本の出荷本数となりますが、栽培３年目を迎える来年は約 1.5 万本に増加する予定です。

部会員、ＪＡ職員の皆さんと
出荷直前のほ場での目合わせ会

市場出荷用に箱詰めされる
リンドウ